

令和元年度 事業報告書

公益財団法人日本ソフトボール協会

公益財団法人日本ソフトボール協会はわが国におけるソフトボール界を統轄し、代表する団体として、定款に掲げる目的を達成するため、以下の諸事業を実施した。

公益目的事業

＜ソフトボールの普及奨励及び競技力向上＞

1) 国内普及事業

- ・小学生低学年および幼児における未経験者への普及振興事業（補助金交付事業）

小学生低学年および幼児におけるソフトボール未経験者に合った「導入プログラム」を作成し、この「導入プログラム」を活用して事業を実施した都道府県協会に対し補助金を交付する補助事業として実施した。

- ・幼児期からのベースボール型体験プログラム普及振興事業（参加型普及事業）

教員やオリンピック、そして日本リーグ経験選手等で構成するプロジェクト（ASOBALLプロジェクト）を設置し、また幼児向けのボール（ASOBALL）をボールメーカーとともに開発し、そのボールを使用し実施可能な都道府県・地域の保育園・幼稚園や保育所における幼児や親子を対象に「参加型プログラム（山梨モデル）」を導入し、計 24 回実施した。また、指導用のガイドブックも作成した。

- ・学校体育ベースボール型授業研修会における普及振興事業（教員向け研修事業）

文部科学省・学習指導要領の改訂に伴い、平成 24 年度から球技・ベースボール型＝ソフトボールが中学校 1・2 年生の必須種目となったことを受け、教員で構成するプロジェクト（学校体育推進委員会）を設置して、指導用ガイドブック・動画 DVD の配布・ホームページへの掲載を行うとともに体育授業の継続的な実施が叶うよう、NPB と連携し全国 29 会場で小・中学校の教員を対象にしたベースボール型授業の研究会を実施した。

- ・日本リーグ加盟チームおよび日本トップリーグ連携機構による普及振興事業

日本リーグ加盟チームは、日本リーグ開催時に地元でソフトボールを行っている子供達を対象にソフトボールクリニックを実施し、また、日本トップリーグ連携機構ではソフトボールクリニックやボールゲームフェスタなどを実施して、ソフトボール以外のボールゲームの体験を行い普及活動を行った。

- ・国際大会の開催

国内において、国際大会を 2 大会（日米対抗、JAPAN CUP）開催し集客を図るとともに各種メディアへの露出をはかった。

2) 国際交流事業

日韓ジュニアスポーツ交流事業を令和元年6月3日～8日に韓国ジュニア女子代表チームを静岡県伊豆市に受け入れ、また、令和元年8月3日～8日に兵庫大学附属須磨ノ浦高等学校女子チームを韓国・釜山市に派遣する相互派遣方式で実施した。この日韓ジュニアスポーツ交流事業は、アジア近隣諸国とのスポーツ交流の促進と相互理解を深めることを目的にスタートした事業で、韓国側からの強い要望で実施され今回で19回目となる。両国の友好親善とソフトボールの普及・振興、競技力向上を目指し積極的な交流を行った。

また、令和元年8月8日～11日、岐阜県揖斐川町に台湾の女子U15代表チームを招待し、GEM2(U15)女子日本代表チーム、さらには岐阜県、愛知県、静岡県から6校の高校が参加して、試合を行いながら友好親善とソフトボールの普及・振興、競技力向上を目指し積極的な交流を行った。

また、合宿で来日したタイ、シンガポールの代表チームへ指導を行い、令和元年11月にはタイに指導者を派遣、さらには令和2年1月9日～15日、マレーシアで開催されたアジア地区の指導者を対象にしたコーチング講習会に指導者を派遣しアジア地区との交流ならびに競技力の向上を図った。

さらに、令和元年6月20日～24日、フランス国内でのソフトボール競技の普及ならびに競技力の向上を図るためフランスへ指導者を派遣した。

3) 広報事業

ホームページまたはフェイスブック、ツイッター等SNSを活用し、大会やソフトボールに関する情報あるいは試合結果を動画も取り入れながら随時更新し情報発信を行った。

日本女子1部リーグ全試合をネット配信、一部全国大会についてもネット配信を行った。また、運動記者クラブと連携を取りながら大会等の広報を行った。

4) 強化事業

我が国におけるソフトボール競技の更なる競技力向上を図り、国際舞台で活躍できる選手の育成、強化を図るため、国内合宿14回(女子日本代表9回、GEM3:3回、男子U18日本代表2回)、海外合宿4回(女子日本代表3回、男子大学選抜1回)、国際大会派遣13回(女子日本代表6回、女子大学選抜1回、女子U19日本代表1回、女子U17日本代表1回、男子日本代表1回、男子大学選抜:1回、男子U18日本代表1回、男子U17日本代表1回)を行った。また、日本リーグ、全日本大会へ視察員を派遣し情報収集活動を行った。

5) 技術研究事業

競技力向上へ寄与するため、NTTと連携し脳科学的な実験、データ収集を行い、また、ストライクゾーンに対応するための研修用の映像を制作し、審判員の研修に活用した。

<ソフトボールに関する競技会の開催>

- 1) 令和元年度全日本大会（26大会）・日本リーグ（女子1部32会場、女子2部8会場、入替戦1会場、男子8会場）を開催した。
- 2) 令和元年6月22日・23日・25日、東京ドーム並びに宮城県仙台市を会場に「日米対抗ソフトボール（女子）」を、8月30日～9月1日、群馬県高崎市において「JAPAN CUP 国際女子ソフトボール大会」を開催した。

<ソフトボールに関する代表選手の選考ならびに派遣>

- 1) GEM3（女子）日本代表選手選考会の実施
平成31年4月23日～25日、静岡県伊豆市にて37名の参加を得て実施した。
- 2) GEM2（女子）日本代表選手選考会の実施
平成31年4月12日～14日、静岡県伊豆市にて29名の参加を得て実施した。
- 3) 男子U18日本代表選手選考会の実施
令和元年11月21日～23日、高知県高知市にて76名の参加を得て実施した。
- 4) 第12回女子アジアカップ大会への派遣
平成31年4月29日～令和元年5月9日までインドネシア・ジャカルタに女子日本代表チーム（選手17名、スタッフ10名）を派遣。10カ国・地域の参加を得て開催された第12回女子アジアカップ大会に参加し女子日本代表チームは優勝した。
- 5) 2019アチールチャレンジ大会への派遣
令和元年6月16日～25日までフランス・パリに女子日本代表チーム（選手17名、スタッフ5名）を派遣。3カ国の参加を得て開催された2019アチールチャレンジ大会に参加し女子日本代表チームは優勝した。
- 6) USAインターナショナルカップ大会への派遣
令和元年7月1日～7日までアメリカ・コロンバスに女子日本代表チーム（選手18名、スタッフ10名）を派遣。8カ国10チームの参加を得て開催されたUSAインターナショナルカップ大会に参加し女子日本代表チームは準優勝した。
- 7) オーストラリアパシフィックカップ大会への派遣
令和2年1月30日～2月2日までオーストラリア・シドニーに女子日本代表チーム（選手19名、スタッフ8名）を派遣。6カ国・地域7チームの参加を得て開催されたオーストラリアパシフィックカップ大会に参加し女子日本代表チームは優勝した。

- 8) 第8回東アジアカップ大会への派遣
令和元年6月10日～17日まで中国・中山に女子大学選抜チーム(選手16名、スタッフ5名)を派遣。5カ国・地域の参加を得て開催された第8回東アジアカップ大会に参加し女子大学選抜チームは優勝した。
- 9) 第13回WBSC女子U19ワールドカップ大会への派遣
令和元年8月6日～20日までアメリカ・アーバインに女子U19日本代表チーム(選手16名、スタッフ6名)を派遣。16カ国・地域の参加を得て開催された第13回WBSC女子U19ワールドカップ大会に参加し女子U19日本代表チームは準優勝した。
- 10) 第8回女子U17アジアカップ大会への派遣
令和元年10月29日～11月12日まで中国・興義市に女子U17日本代表チーム(選手20名、スタッフ6名)を派遣。7カ国・地域の参加を得て開催された第8回女子U17アジアカップ大会に参加し女子U17日本代表チームは優勝した。
- 11) 第16回世界男子選手権大会への派遣
令和元年6月4日～25日までチェコ・プラハに男子日本代表チーム(選手17名、スタッフ7名)を派遣。16カ国の参加を得て開催された第16回世界男子選手権大会に参加し男子日本代表チームは準優勝した。
- 12) 第4回マカッサルオープン大会への派遣
令和元年9月15日～22日までインドネシア・マカッサルに男子大学選抜チーム(選手15名、スタッフ5名)を派遣。5カ国7チームの参加を得て開催された第4回マカッサルオープン大会に参加し男子大学選抜チームは第3位となった。
- 13) 第13回男子U18ワールドカップ大会への派遣
令和2年2月13日～3月3日までニュージーランド・パーマストンノースに男子U18日本代表チーム(選手16名、スタッフ6名)を派遣。12カ国の参加を得て開催された第13回男子U18ワールドカップ大会に参加し男子U18日本代表チームは優勝した。
- 14) 第7回男子U17アジアカップ大会への派遣
令和元年9月3日～14日までマレーシア・ジョホールバルに男子U17日本代表チーム(選手17名、スタッフ6名)を派遣。6カ国の参加を得て開催された第7回男子U17アジアカップ大会に参加し男子U17日本代表チームは優勝した。

<ソフトボールに関する競技規則の制定>

- 1) ルール委員会を1回開催し、令和2年度のオフィシャル・ソフトボール・ルールの制定作業を行った。

<ソフトボール競技公認審判員、公式記録員及び指導者の認定ならびに養成>

1) 公認審判員認定会

令和元年度における認定は第1種 248名、第2種 268名、第3種 2,431名が認定された。

2) 公式記録員認定会

令和元年度における認定は第1種 61名、第2種 117名、第3種 1,222名が認定された。

3) 準指導員養成講習会

令和元年度における認定は 797名が認定された。

4) 公認コーチ3養成講習会

令和元年12月13日～17日、東京都において実施し、45名が受講した。

5) 審判員中央研修会の実施

令和2年2月7日～9日、愛知県にて全国の各都道府県ソフトボール協会の中核となる審判委員長またはこれに準ずる審判員を対象に、ソフトボール競技のルールの研究と適用、審判技術の向上を図るとともに審判員相互の連帯感を深め、より良い審判体制の確立を図るため実施した。

6) 記録員中央研修会の実施

令和2年2月7日～9日、愛知県にて全国の各都道府県ソフトボール協会の中核となる記録委員長またはこれに準ずる記録員を対象に、ソフトボール競技のスコアブック作成上の注意事項の確認、事例研究ならびにコンピュータでの記録集計とその活用の研修をし、さらには記録員相互の連帯感を深め、より良い記録体制の確立を図るため実施した。

7) 学校体育ベースボール型地域授業研究会の実施

全国29会場でベースボール型授業の指導法について、小・中学校の教員を対象に必要な知識や技能の習得を図るため実施した。

<機関誌及び刊行物の発行>

1) 令和元年度の刊行物

- ・ オフィシャル・ソフトボール・ルールブック (2019年度版)
- ・ 競技者必携 (2019年度版)
- ・ オフィシャル・ソフトボール・ルールケースブック
- ・ 指導教本
- ・ スコアリングマニュアル
- ・ アンチドーピングマニュアル
- ・ 学校体育ソフトボールガイドブック

- ・ 幼児期からのボールあそびプログラム
- ・ 熱中症予防パンフレット
- ・ 指導者向け体罰等ハラスメント防止リーフレット

<アンチ・ドーピングの普及>

- 1) アンチ・ドーピングマニュアルを作成・配布し、またドーピング防止に関する研修会も実施した。ドーピング検査については5競技会で検査を実施(44検体)した。

収益目的事業

<ソフトボール用品・用具の検定>

1) 用具検定会の実施

令和元年度における用具検定会は令和元年6月21日、11月29日の2回実施し、用具用品メーカーより用具検定料を徴収した。

2) 商標提供

用具用品メーカーと当法人が保有する商標等の使用許諾に関する覚書を取り交わした。

<機関誌及び刊行物の発行>

- 1) 会報(JSAソフトボール機関誌)を年11回発行した。

- 2) 当法人が発行する刊行物に掲載する企業広告に対し広告料を徴収した。

<その他この法人の目的を達成するために必要な事業>

1) トスコイン・バットリング・会員バッジの販売

トスコイン、バットリング及び当法人会員バッジを販売した。

その他法人会計事業

<その他この法人の目的を達成するために必要な事業>

- 1) 公益財団法人日本スポーツ協会及び公益財団法人日本オリンピック委員会、世界野球ソフトボール連盟、アジアソフトボール連盟に対し、ソフトボール界を代表して加盟した。

- 2) 理事会等、当法人の運営に必要とされる諸会議を実施した。

- 3) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業を実施した。